

はしもと

〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～

患者様のため、まごころの医療を目指します
地域の皆様から信頼される病院づくりに努めます
常に新しく良質な医療ができるように心がけます
皆様の健康増進、疾病予防のお役に立ちたいと願っております

〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



回復期リハビリテーション病棟（看護師）

＜内服薬の自己管理を目指して＞

私たちは患者様の全身状態を把握し、安心してリハビリが行えるように援助し、異常があるときは早急に医師に報告し24時間体制で患者様をサポートしています。個別のリハビリを行い、病棟生活自体リハビリと捉えて常に在宅復帰を見据えたケアを考えています。

その中でも重要なのが内服薬の管理です。退院後、ご自身で薬の服用が確実にできるように、内服方法の検討を行います。自己管理ができるかどうかはマニュアルに沿って評価します。

管理方法



内服カレンダー、内服BOX、薬袋等を使って薬を管理します。

動作練習



麻痺のある方や視野欠損等、薬を袋から出す事ができない方はリハビリスタッフと相談し、はさみの使い方等の指導を行います。

薬を上手に口に運べずこぼしてしまう方等はその人に合った自助具の作成をして動作練習を行います。

自己管理の練習を開始される患者様は、内服薬を病棟の自室で管理します。

食事の際に、食後の薬を用意することができたかどうか、確実に服用できているか等を看護師が確認します。看護師はその都度声掛けを行い、確実に服用できるように繰り返し練習します。

安全で確実に服用して頂くために、その人に合った内服方法を練習して自己管理することで、病気の管理、薬の必要性を理解して頂くことに繋がります。



家族会（言語聴覚士）

テーマ「その一口が命取り!?!」

平成29年12月16日（土）家族会（担当：言語聴覚士）

食事中にむせる事や飲み込みにくい事はありませんか？

嚥下障害とは、脳卒中による麻痺や、舌・喉の筋力の低下によって水や食物が上手に飲み込めない状態です。それにより気管に食物が入る事を誤嚥と言います。食物が肺に入ると細菌が増え、炎症を起こすことで誤嚥性肺炎を発症する危険性があります。



それを防ぐポイントとして、①食事に適した姿勢、②適した食事の調整（食事形態やトロミ量の検討）があります。家族会では、これらについての講義とリハビリ体験、トロミ付きのお茶や当院でお出ししている食事を試食して頂き、改めて「食べる」ということについての大切さや難しさをご理解頂くことができました。



食事や飲み込みなどについて不安や疑問に思うことがありましたら、当院の言語聴覚士までお気軽にお尋ねください。



栄養部

イベント食をご紹介します！

「節分」



巻き寿司
いわしの塩焼
炊き合わせ 清汁



「バレンタイン」



ご飯 クリームシチュー
青菜炒め
盛り合わせサラダ
チョコレートプリン



「ひなまつり」



桃の節句寿司 若竹煮
ひなあられ 三色ようかん
かす汁



病棟
バイキ
ング

毎月季節のイベン
トメニュー等を
提供しています。

次回をお楽しみ
に！！

通所リハ おやつバイキング



健康教室

香川県理学療法士会健康増進部様からの依頼で**健康教室**を行いました。

日時：2018年2月8日（木）10:00～11:00

場所：財田大野農業構造改善センター



講義内容は「関節の痛みについて」でした。

参加者は、男性16名、女性19名（平均年齢80歳）で、とても元気な方々ばかりでした。この場所で健康教室の講義を担当させていただくのは今年で3年目です。今後も地域の皆様のため、有益で効果的な情報を提供していきたいと思ひます。



香川県理学療法士学会

第23回 香川県理学療法士学会

会期：2018年2月11日（日）
会場：レグザムホール（高松市）



「視床出血を発症後、歩行自立を目指した症例 ～予後予測を用いて～」 竹本絵莉
「大腿骨転子部骨折を受傷し独居での自宅復帰を目指した超高齢女性」 成瀬瑞貴
「既往歴に腰髄損傷を呈した腰椎圧迫骨折の症例 ～足趾機能と重心位置に注目して～」 木田亮輔
「大腿骨転子部骨折術後、偽痛風の発症によりADL獲得に支障を来したが自宅退院に至った症例」 小林采花
「転倒リスクと活動の観点から歩行補助具の選定を難渋したが、T字杖歩行を獲得した症例」 川井茂崇

今回1年目の臨床の中で悩み、考え、工夫した理学療法を、症例発表として院外に発信させて頂きました。諸先生方より指導を頂き、沢山の学びを得ることができました。今回の経験を今後の臨床に生かしていきたいです。

日本静脈経腸栄養学会学術集会

第33回 日本静脈経腸栄養学会学術集会

会期：2018年2月22日（木）～23日（金）
会場：パシフィコ横浜

「回復期リハビリテーション病棟における
歩行自立に必要な栄養指標基準についての検討」
大野達郎/PT

今回、理学療法士の視点からの発表をさせて頂きました。

学会に参加したことで他病院の考えや方針などを学ぶことができ有意義な時間となりました。



慢性期リハビリテーション学会

第5回 慢性期リハビリテーション学会

会期：2018年2月26日（月）～27日（火）
会場：パシフィコ横浜

当院から発表者6名、座長1名、ボランティアスタッフ5名の計12名が参加しました。発表では寒川拓実OTが優秀演題賞を獲得しました。

また、慢性期リハビリテーション協会 次期会長に、当法人 橋本康子理事長が就任することとなりました。



「若年脳血管障害患者における職場復帰に関する因子の検討」 寒川拓実/OT
「回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカム評価の独居者に対する妥当性の検証」 川崎健太/PT
「移乗介助申し送りシートの運用について -移乗介助時の職種別着眼点に着目して-」 岸井貴洋/介護福祉士
「退院後脳血管疾患患者における転倒予防自己効力感尺度と転倒回数、環境、歩行補助具との関連」 新見綾香/PT
「脳卒中後の抑うつ症状（PSD）とADLとの関連性について」 田中彩貴/Ns
「自宅への早期復帰を果たした重度失語、高次脳機能障害の一症例 -STの果たした役割の検討-」 西本ありさ/OT

四国作業療法学会

第28回 四国作業療法学会

会期：2018年1月13日（土）～14日（日）

会場：あわぎんホール（徳島県）

「仲間とのベタタンクに復帰できた症例」 土居亮平

「自転車に乗りたい～回復期リハビリテーション病棟における

生活行為向上マネジメントの活用～」 山岡祐樹



瀬藤功OT（写真右）も座長として学会に参加しました。

学会を通し、自己の考えを相手に伝えることの難しさを感じると同時に、貴重な意見、アドバイスを頂くことができ、とても有意義な機会となりました。

また、来年の四国作業療法学会は、地元香川県の開催となります。今年以上の参加を目指し、香川県の作業療法を盛り上げていこうと思います。

香川県作業療法学会

第19回 香川県作業療法学会

会期：2017年12月17日（日）

会場：ハイスタッフホール（観音寺市民会館）

「介護拒否のある患者に対して栄養とADLに着目して」 宮川友輔

「退院後の生活を見据えた介入により、役割や主体的な生活を再獲得した症例」 田川奈美

「閉じこもらない生活」を目指した症例」 濱田彩夏



橋本病院からは、3演題の発表となりました。発表を通して、普段の仕事とは違った緊張感、不安感、達成感を得ることができました。

また、来年の四国作業療法士学会は、香川県で10月に開催されます。地元開催のため今年以上に参加・発表ができればと思っています。

全国回復期リハビリテーション病棟協会研究大会

第31回 研究大会in岩手

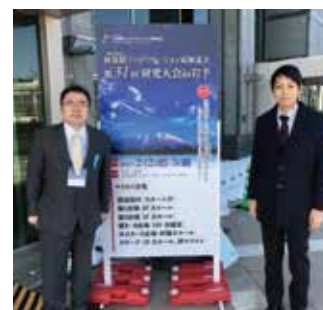
会期：2018年2月2日（金）～3日（土）

会場：盛岡市民文化ホール、マリオス、アイーナ

「回復期リハビリテーション病棟における

ADL改善と自宅退院に影響を及ぼす因子の検討」 萩原智和／OT

「回復期リハビリテーションのアウトカム評価に影響する因子の検証」 西岡和也／PT



今回二人とも初めての東北・岩手県、そして回復期リハビリテーション病棟協会研究大会への参加でした。全国の病院の様々な取り組みや活動に関しても多くを学ぶ機会となり非常に充実した2日間でした。次回開催は千葉県で行われます。今後も学会への参加や発表に向けて頑張りたいです。



外来

<メタボリックシンドロームとは>

内臓脂肪の蓄積に加え、高血糖、高血圧、脂質異常のうち2つ以上をあわせもった状態をいいます。

糖尿病や脂質異常症、高血圧症などの病気とまではいかないものの、メタボリックシンドロームの状態を放置しておくと、動脈硬化が急速に進行し、心臓病や脳卒中等の発症リスクが高まります。

特に、40歳を越えると男性では2人に1人、女性では5人に1人がメタボリックシンドロームと言われています。

特定健診にて生活習慣病を見つけるチャンスです。
ぜひ受診してみましよう。



1 必須項目
(内臓脂肪蓄積)

ウエスト周囲径

- 男性85cm以上
- 女性90cm以上

2 選択項目
①に加えさらに次のうち2項目以上あてはまる

脂質異常症

- 中性脂肪 150mg/dL以上
- HDLコレステロール 40mg/dL未満

のいずれかまたは両方

高血圧

- 最高(収縮期)血圧 130mm/Hg以上
- 最低(拡張期)血圧 85mm/Hg以下

のいずれかまたは両方

高血糖

- 空腹時血糖値 110mg/dL以上

1 と 2 にあてはまる人はメタボリックシンドロームと考えられます。



医療安全管理体制委員会

転倒事故を防ごう！

生活している以上、転倒は誰にでも起こり得るアクシデントです。しかし、環境面に配慮することで防げる転倒もあります。ではまず、転倒が起こりやすい場所をチェックしてみましょう。

転倒しやすい場所

●ぬれているところ

ぬれている場所はすべて転倒するリスクが高まります。台所、風呂場などの他、屋外では、雨の日の横断歩道の上・マンホールの上なども要注意です。なお、風呂場では、入浴剤を使用するとさらにすべりやすくなります。



●階段・段差

慣れ親しんだはずの家であってもちょっとした段差（敷居やふすまのサン）や玄関でつまずくことがあります。また、こたつやふとんに引っかかって転倒してしまうケースも多いようです。階段の場合、最後の一段が特に要注意です。



●片付けていない部屋

当然のことですが、片付けがされていない部屋では、転倒する危険が高まります。



日常生活には危険がいっぱいです。
転倒転落しても骨折しないような、骨作り、体力・筋力作りを目指しましょう。

地域連携室

平成25年12月1日から行っている**事前訪問**（当院転院前に患者様が入院されている病院へ直接訪問し、心身状態の把握や入院についての説明等を実施）の平成29年11月～平成30年2月の実績（回復期リハ病棟）を紹介します。

- 1ヶ月の訪問件数：11月【28件】、12月【22件】、1月【23件】、2月【26件】
- 入院されている病院から紹介状が届いて訪問するまでの平均日数：11月～12月【7.0日】、1月～2月【11.3日】
- 紹介状が届いて当院へ転院されるまでの平均日数：11月～12月【15.3日】、1月～2月【22.7日】

※事前訪問後、当院へ転院されるまでの平均日数は9.8日（1～28日）です。**大変お待たせて申し訳ございません。**

対象となる方

1. 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態から2ヶ月以内。高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の発症から2ヶ月以内。
2. 多肢の骨折、大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折もしくは手術後から2ヶ月以内。
3. 外科的手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後から2ヶ月以内。
4. 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は関節の神経、筋又は靭帯損傷後の1ヶ月以内。
5. 股関節又は膝関節の置換術後の状態の1ヶ月以内。



リハビリは 365日、1日3時間

提供させていただきます。
また、多職種によるチーム医療で、早期に退院できるように取り組んでいます。

入院相談はお気軽にご連絡ください

橋本病院 地域連携部

窓口：大西 宏美

電話：0875-63-3552（直通）

0875-63-3311（代表）



認知症治療病棟への入院相談もお伺いしております。お気軽にご連絡ください。



移動も安心のサービス

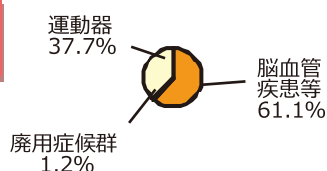
転院の際の無料送迎をしております。ご希望の方はお気軽にお申し出ください。

事務部

～診療実績(H30.2月)～

病棟名	1病棟 (29床)	2病棟 (60床)	3A病棟 (35床)	3B病棟 (32床)
入院料	回復期 リハビリ	回復期 リハビリ	認知症 治療	認知症 治療
平均入院患者数	28.8人	59.4人	34.6人	31.7人
平均在院日数	82日	100日	312日	287日
在宅復帰率	76.4%	77.8%	-	-

入院患者疾患別 リハビリテーション 内訳



国民健康保険被保険者証・高齢受給者証の 提示をお願い致します

- 国民健康保険被保険者証
 - 国民健康保険高齢受給者証
- 上記の有効期限が **H30年3月31日** になっております。新しい保険証がお手元に届きましたら受付窓口まで提示をお願い致します。

《H30.4月より外来診療が変わります》

4月より、内科診療は月～金曜の午後から休診となります。

ご迷惑をおかけ致しますが、詳細は受付までお問合せ下さい。



受付

全国抑制廃止研究会

第19回 全国抑制廃止研究会 東京大会 テーマ「身体拘束とその弊害」

開催：2018年2月24日（土）

会場：武蔵野大学有明キャンパス

第19回 全国抑制廃止研究会 東京大会に看護師2名が参加しました。当院では拘束は行っていません。拘束は人としての尊厳を傷つけ、精神的・肉体的にもダメージを与えます。しかし拘束を行わないことは転倒や転落などの事故につながることもあります。全国で拘束廃止にむけ取り組んでいる医療機関の情報を沢山頂きました。拘束をせずに安全な入院生活が送れるように当院でも実施できるものは取り入れていきたいと思えます。



認知症治療病棟

第1回 DT実践発表全国 in 大阪

会期：2017年12月3日（日）

会場：大阪リバーサイドホテル

「認知症治療病棟におけるDT活動と作業療法士の活動報告」 長野綾／NS
森藤拓也／OT

10年以上当院でDT活動を行っている芹沢先生が学会を行う事になり当院からも毎月行っているDT活動の様子を発表させて頂きました。今回聞いた他施設の考えや発想などを当院でも取り入れ、より良い病棟にしていきたいと思えます。



院外イベント参加

第72回 香川丸亀国際ハーフマラソン 開催日：2018年2月4日（日）

スタート時の気温は5.7℃、時折雪が舞い散り、復路は向かい風の厳しいコンディションの中、約9300人が力走しました。当院からは初参加2名、7年連続1名の理学療法士3名が参加し、無事完走をはたしました。寒い中応援してくれた沿道の方々、運営に携わっていただいたボランティアスタッフの方々に感謝申し上げます。



職員募集のお知らせ

募集

薬剤師
看護師・准看護師
介護福祉士・介護職



まずは、病院見学にお越し下さい！
給与等詳細は、当院ホームページでも閲覧できます。
<http://www.wafukai-hashimoto.jp>
TEL 0875-63-3311（人事担当：安藤）

医療法人社団和風会 橋本病院
〒768-0103
香川県三豊市山本町財田西902番地1
TEL：0875-63-3311
FAX：0875-63-2651
入院相談直通電話：0875-63-3552
E-mail：wafukai@gaea.ocn.ne.jp
HP：http://www.wafukai-hashimoto.jp
発行元：橋本病院 広報委員会

医 回復期リハビリテーション病棟 89床
療 認知症治療病棟 67床

橋本病院指定居宅介護支援事業所
介 通所リハビリテーションセンターはしもと
護 メディコボリス観音寺デイサービスセンターはしもと
訪問リハビリテーションセンターはしもと

